

民生病院常任委員会審査概要報告書

委員長 角田 悠紀

- I 開催年月日 令和 3 年 2 月 1 日 (月)
- II 会議時間 午前 10 時 00 分～午前 10 時 54 分
- III 出席委員等 [出席委員] ◎角田 悠紀 ○酒井 善広 高瀬 充子
本田 利麻 上田 武 曽田 康司
薮中 一夫 中川 加津代 狩野 安郎
(◎…委員長 ○…副委員長)
[説明員] 別紙名簿のとおり (薮下病院長が公務のため欠席)
[委員外議員] なし
[事務局職員] 西本 幸夫 松本 武司 堀田 寛之
[傍聴者] なし
- IV 審査の概要

- 1 梅崎市民生活部長より、収集職員同士によるトラブルについての陳謝及び説明があった。

〈 委員から、次の質疑等があった。 〉

(以下、質疑・質問内容は ○ 、答弁内容は △ で表示)

【収集職員同士によるトラブルについて】

- この事案は令和 2 年 12 月に発生したとの報告があったが、なぜ議会への報告がこんなに遅いのか。
- △ 当事者間で示談等を進めている状況であったため、議会への報告が遅くなってしまった。誠に申し訳なく思っている。
- 今後は、このようなことがないよう早急に報告してほしい。(要望)

- 2 浦島消防長より、出動指令書及び傷病者引受・引渡書の紛失についての陳謝及び説明があった。

〈 委員から質疑はなかった。 〉

3 報告事項について

〈 当局から、次の報告・説明があった。 〉

[消防本部]

。令和2年火災と救急・救助のまとめについて

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

【火災と救急・救助のまとめについて】

- 今冬は豪雪であったが、路地などの侵入が難しいところからの救急要請の事例はあったか。
- △ 除雪が行き届かない場所に対しての救急要請については、通報内容と出動要請場所等を勘案し、必要に応じて、消防隊が救急支援として同時に出動する。救急出動についての支援活動は1件であった。
- その事例では、順調に活動することができたのか。
- △ 今回の支援出動については、山間地から救急要請があり、救急出動する際に、救急車1台では救急の活動が困難であると判断し、直近の消防署から消防隊が出動し、支援活動を行ったものである。
- 今回の大雪により、救急車が交差点で立ち往生するなどの事例があったと仄聞しているが、搬送遅れなどの事例はあったのか。
- △ 救急車が交差点で立ち往生したという情報は把握していない。ただし、大雪や道路の圧雪状況などにより、現場到着までに遅れが出たという事例は数件ある。
- 最大でどれくらいの遅れが生じたのか。
- △ 大雪による現場到着までの最大の遅れについては、把握していないが、大雪により平均到着時間が約14分かかっている。令和2年の全体の平均時間は、約7.1分であり、約6.9分の遅れが生じていたということになる。
- 遅れにより、人命に関わったという事例はないのか。
- △ 搬送に時間を要した事案はあるが、搬送中の傷病者の容態の悪化もなく、医療機関到着後の治療の影響もなかった。
- 過去10年間の火災件数と主な出火原因について、令和2年は27件の出火ということで令和元年よりも減っているが、放火が5件と多く感じる。火災原因についての見解は。
- △ 放火については、例年に比べ、やや多い数字ではあるが、令和2年の5件は、地域や時期が集中することなく起きている。放火の様態を見ながら、地元消防団の方々等に巡回をしてもらい、警戒に努めている。

2 その他

〈 委員から、次の質疑があった。 〉

【新型コロナウイルス感染症対策について】

- 新型コロナウイルスについて、今までの本市の感染者患者は何名か。
- △ 県健康課から県内における新型コロナウイルス感染症の発生状況一覧が発表されており、居住地が本市の方は令和3年1月31日現在、58名とされている。
- 新型コロナウイルス感染症高齢者等検査体制整備事業におけるPCR検査の状況は。
- △ 本市では、65歳以上の高齢者や、60歳以上の基礎疾患を有する方のうち、行政検査対象者を除く希望者に対し、PCR検査費用の一部助成を令和3年1月から実施している。問い合わせは数件あったものの、1月末現在、検査の実施には至っていない。1月に入ってから感染者は29名となっているが、周辺の関係者に対する行政検査が幅広に実施されていると伺っており、本事業の実施状況がゼロ件である要因の一つとして考えられる。
- コロナ禍における自殺対策は。
- △ 本市では、「高岡市自殺対策行動計画」に基づき、誰も自殺に追い込まれることのない高岡市の実現を目指して、地域におけるネットワークの強化や自殺対策を支える人材の育成などに取り組んでいる。今般の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて社会的不安を抱える方は多くいると思われ、本市では本計画に基づく各種支援策を「高岡市自殺対策庁内連絡会議」において再度確認し、市民生活を支える関係課における取り組みを推進している。また、社会的不安を抱えた方に寄り添った対応を行うための職員向けゲートキーパー養成講座を開催し、市民からの相談を受けた職員が悩みに気付き、声をかけ、必要な支援を行うとともに、適切な相談・支援機関につなぐ体制づくりをしている。加えて、県では夜間や休日も含めた電話相談窓口やSNSのLINEによるオンライン相談窓口体制を確保され、チラシの配布やテレビCMの放映による周知をされており、本市においても、そのチラシを生活に困っている方が利用される相談窓口に配置するとともに、高岡駅周辺のデジタルサイネージによる周知をするなど、県と連携して相談窓口の周知を行っている。さらには、市民が孤立しないよう、民生委員等による日常的な見守りや声かけをお願いするとともに、社会福祉協議会や地域包括支援センターなどの地域における専門機関との連携により、地域での見守り・支援体制を一層推進したい。
- 県と全市町村で協定締結した内容と期待する効果は。
- △ 新型コロナウイルス感染症に関し、クラスターが多数発生する等、大規模な感染拡大時には、県厚生センター及び保健所を設置している富山市において業務が増え、人的支援が必要となる場合も想定される。県や富山市の組織内での対応が困難になった場合の県内の応援体制の構築を目的に令和3年1月19日付けで協定を締結した。協定では、保健師、看護師、薬剤師、他の専門職が派遣対象となっており、適用となった場合には電話相談、健康観察、医療機関の受診調整等の応援業務を担うことにより、迅速かつ円滑な対応が可能になるとを考えている。
- 新型コロナウイルスのワクチン接種について、一度に配達されるのは、千回分と聞くが、優先順位と一日の接種人数は。
- △ 予防接種法及び検疫法の一部を改正する法律等が令和2年12月9日に公布・施行さ

れ、新型コロナウイルス感染症に係るワクチンの接種については、予防接種法の臨時接種に関する特例を設け、国の指示のもと、都道府県の協力により、市町村において実施するものと示された。まだ薬事承認がされていないため、いつ頃、どの程度のワクチンが供給されるのか具体的には示されていないが、医療従事者、65歳以上の高齢者、高齢者以外で基礎疾患有する方や高齢者施設等に従事されている方と優先順位が国から示されている。

- 実施はいつからか。また、実施場所は。
- △ 国の示す接種スケジュールに基づき、円滑な住民接種を進めるため、必要な体制の確保を図ることを目的に令和3年1月22日に福祉保健部長を本部長とし、新型コロナウイルスワクチン接種事業実施本部を設置したところである。実施場所の選定等についても県と連携し、医師会や医療機関等関係団体と順次協議を行っていく。
- 接種にかかる費用負担はあるのか。
- △ 新型コロナワクチンの接種については、厚生労働大臣の指示に基づき国の負担により実施することを踏まえ、接種委託費用についても、全国統一の単価となっており、接種1回目、接種2回目とも公費により無料で接種できる。
- 職員の入件費や周知にかかる費用なども国が負担してくれるのか。
- △ 接種費用は国の負担金として、事務的経費については補助金という形で予算を組めることになっている。詳細が決まれば、報告したい。
- 実施にあたり市民への周知方法は。
- △ 本市としては、引き続き国的情報収集を行い、市民に正確でわかりやすい情報発信に努めるほか、コールセンター等でも相談できるような体制整備を検討していく。
- 通常診療を妨げない万全な体制に向けての考え方。
- △ 接種を行う体制の構築を推進し、円滑な接種を実施するためには医師会をはじめとした医療関係団体のご理解とご協力が不可欠だと考えており、地域の安心・安全な医療提供体制を確保するため、医療関係団体と協議を重ねていきたい。
- 市民病院医療従事者へのPCR検査はどの程度されているのか。
- △ 職員が感染者や濃厚接触者となったときなどに、その職員と接触があったと思われる職員を必要な都度、医師の指示に基づき検査を行っている。全員一律に定期的に検査することは行っていない。
- 行われたPCR検査の件数は。
- △ 極めて限定的である。件数の公表については、控えたい。

【大雪の影響について】

- 大雪によって救急出動への影響はあったのか。
- △ 消防本部では、大雪警報発令の1月8日から、警報解除後も降雪があった13日までの期間に136件の救急出動があった。覚知から現場到着までの平均時間は、令和2年1年間の平均所要時間7.1分に対して、今回の平均が14.0分であり、約7分多く時間を要した。また、覚知から病院収容までの平均時間については、令和2年の平均所要時間28.2分に対して、今回の平均が42.5分であり、約14分多く時間を要した。大雪による道路交通状況を踏まえて、出動地点や出動選別された救急車の位置等を勘案し

て、現場到着までに特に時間を要すると判断した場合については、通信指令員や出動途上の救急隊員から通報者に必要な応急処置を口頭で伝えるとともに、要請場所の直近消防隊に救急支援出動を指示し、救急隊が現場に到着する前に、傷病者に対する応急処置の実施や救急隊到着後の活動支援を行った。このように、大雪により全般的に時間を要した救急出動となつたが、搬送した傷病者の容態の悪化などは確認されておらず、医療機関での治療への影響はなかったものと考えている。今後とも、大雪に対する救急体制の強化に努めたい。

- 休校中も学童を開設していたが、除雪に対する苦情は。
- △ 大雪に伴い、本市の小学校等では1月12日と13日を臨時休業としたが、各小学校、義務教育学校においては、小学校1年生から3年生までの児童を対象に、家庭での日の中の対応が困難な場合は、保護者の申し出により個別に各学校で自習できるよう体制を整えて対応した。こうした学校の対応を踏まえ、放課後児童クラブは通常どおり開所し、学校での自習終了後に児童を受け入れられるよう、各クラブに対応していただいた。支援員等の駐車場の確保に苦慮されたクラブも一部にはあったと聞いているが、結果として、全てのクラブで開所していただいた。なお、子ども・子育て課に対して、学童保育の利用に際しての除雪対応に関する保護者からの苦情はなかった。
- 介護や福祉事業者等からの苦情は。
- △ 今回の大雪により、介護事業所等からの苦情は特に聞いていない。苦情ではないが、障害者支援施設1カ所からは、道路除雪対策本部への施設前道路の除雪依頼に対し、スムーズに除雪してくれたとの報告があったと聞いている。
- 在宅高齢者サービスのうち、除雪支援について、今季の助成件数は。助成額を増やせないか。
- △ 一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯などのうち、市民税非課税世帯に対し、屋根の雪降ろしにかかった費用の一部を助成する除雪支援事業を行っている。屋根の雪降ろしに対する令和3年1月29日までの助成の交付決定見込み数は24件となっている。この事業は除雪作業終了後、30日以内に申請していただくことになっており、先般の大雪に伴う屋根の雪降ろしに対する申請は今後も増加するのではないかと考えている。また、助成額は県の除雪に対する補助額を参考にしており、1回あたり1万960円を上限としている。近隣市の状況もほぼ同水準となっており、引き続き、現状の内容で対応していきたい。

【消防行政について】

- 県の消防学校が、新年度に「自然災害科」を設置することだが、内容と期待する効果は。
- △ 近年、全国各地で風水害や土砂災害が頻発していることを受け、令和3年度から県消防学校の教育科目の一つとして自然災害科が設置されることになった。自然災害科では、土砂災害における安全管理や木造家屋の倒壊メカニズムなどに関する研修のほか、ドローンを活用した情報収集や土砂災害現場を想定した救助訓練などを主な内容としており、災害に的確に対応できる職員の育成が期待される。
- 本市消防としての取り組みは。

△ 消防本部では、令和元年11月に職員を対象に土砂災害初動対応連携訓練を実施し、職員の土砂災害に関する知識や救助技術の確認を行った。また、令和2年11月、県消防学校で開催された土砂災害対応訓練に職員が参加し、土砂災害時における効果的な救助手法についての知識と技術を習得するとともに、訓練を通じて県内の消防本部間の連携の強化を図っている。今後とも、消防本部において土砂災害に備えた研修、訓練等を計画的に実施するとともに、自然災害科への職員派遣などを通じて、職員の育成に努めたい。

〈 以上で委員会を閉じた。 〉

民生病院常任委員会 当局説明員（18名）

| | | | |
|--------------------------|--------|------------------------|--------|
| 市民生活部長 | 梅崎 幸弘 | 市民病院長 | 薮下 和久 |
| 市民生活部次長 地域安全課長・環境政策室長 | 堺 啓央 | 市民病院事務局長 | 崎 安宏 |
| 環境サービス課長 | 山本 明宏 | 総務課長 栄養管理課長 | 新田 裕子 |
| | | 医事課長 | 長田 由美子 |
| 福祉保健部長 | 川尻 光浩 | | |
| 福祉保健部次長 参事 | 笹島 永吉 | 消防長 | 浦島 章浩 |
| 社会福祉課長 | 山本 真弘 | 消防本部次長 | 山口 喜代治 |
| 子ども・子育て課長 保育・幼稚園室長 | 村上 彰 | 総務課長 高岡・氷見消防広域化準備室長 | 有澤 智文 |
| 高齢介護課長 | 森川 朋子 | 予防課長 | 布橋 隆男 |
| 健康増進課長 | 山本 美由紀 | 警防課長 | 山田 安宏 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |